

事例項目	05 学校体制づくりのサポート 06 ケース会議・研究協力・特別支援教育に係る情報発信
概要	特別支援教育コーディネーターが各連携高等学校を訪問しての情報交換とその対応
事例提供校	高校： 西部地区 連携高校 特支： 浜名特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	・特別支援学校との繋がりをどのようにもったらよいか分からないので、教えて欲しいです。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	・連携する各高等学校に訪問し、情報交換する中で高等学校の現状とニーズを把握しました。 ・訪問時に授業の様子を含めて校内参観をしたり、支援が必要と考える生徒について担任からの相談に対応したりしました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のように、授業見学に来て、担任からの相談にのってもらいたいです。 ・進路関係の情報提供、特に福祉的な就労に関しての情報を得たいです。 ・発達障害なのかどうかを判断するための情報提供や行動の見立てについての助言が欲しいです。 ・教室などの環境調整について教えてもらいたいです。 ・生徒や保護者の相談に乗ってほしいし、高校へのケース会議に加わって欲しいです。 ・発達に特化した相談に対応してもらいたいです。 ・教育相談委員会に月に1回参加し、生徒の対応などの相談にのってほしいです。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校に行くことを本人や保護者が希望しない、または進路に関する多様な情報を得ることなく高等学校を選択した発達障害の特性が強い生徒が少なからずいることが分かりました。その生徒達は、学校への適応が困難になっていて、教員も指導方法に悩んでいる状況があるので、今後も高等学校への支援が継続的にできるといいと考えます。 ・高校生は、発達障害だから適応に困難さをもっているのか、その困難さから環境的な要因が加わりより適応に困難さがあるのかなど、複雑でどんなケースか判断が難しいです。その場合は、スクールカウンセラーなど心理の専門家が対応するほうがより適切だと思います。 ・特別支援学校が発揮できる機能は、主に、卒業後の進路に関する情報提供、自立活動に関する相談や環境調整などの教育相談です。学習面での個別的フォローについては、難しいと考えます。 ・どの高等学校も困っている生徒の支援をしようという意識が高く、今後は校内体制を明確化し、教員同士の情報共有などを進めていくのが良いと思います。

まとめ
特別支援学校のコーディネーターは、高等学校の先生方を支えるのが大きな役割と考えています。「一緒に考える」というスタンスを大切にしていきたいと思いますので、気軽に連絡してください。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。